



「SPINAL CORD INJURIES」

Edited by

DANIEL RUGE, M.D., M.S., Ph. D., F.A.C.S.

著者 DANIEL RUGE の言葉を借りると、この本は脊髄損傷に対する完全な内科的、外科的アプローチを紹介するための1つの試みである。

脊髄損傷患者は損傷を受ける前に存在していた問題も保有しているが自由意志の欠如や不随意的神経機構のようにいろいろな難問題がすぐさま加わる。問題解決の1つは医学の多くの分野すなわち神経学、神経外科学、整形外科、放射線学、泌尿器学、精神医学、形成外科学、心臓学、胃腸病学そして物理医学、リハビリテーションなどの熟練と知識を要するといっている。

本文は次のように分れている。

1. 解剖学 (脊椎と脊髄の解剖、脊髄の血管支配、脊髄の構造)
2. 運搬
3. 損傷 (脊椎の損傷、脊髄の損傷)
4. 損傷患者の評価 (神経学的評価、レ線検査、髄液研究、筋電図と神経刺激、ミエログラフィー)
5. 損傷初期の治療 (損傷に対する手術、損傷に対する

る非観血的治療)

6. 医学的管理 (感情面、医学的一般問題、胃腸の問題)
7. 脊髄損傷の合併症 (膀胱管理、褥創、痛み、痙性、痙性に対するフェノールブロック、整形外科的処置)
8. リハビリテーション (手の管理、手の外科的手術、将来性)

最も大きい特徴は8つの分野、それに付属する項目で各分野の専門家13名の執筆で構成されてることである。

脊髄損傷に関する図書、文献は数多いがその知識を再確認する意味でも価値がある。

Associate Professor of Surgery

Northwestern University

Attending Neurosurgeon

Chicago Wesley Memorial Hospital

Veterans Administration Research Hospital

Rehabilitation Institute of Chicago

Chicago, Illinois

© 1969, by CHARLES C THOMAS • PUBLISHER

Library of Congress Catalog Card Number: 69-1479

(高知リハビリテーション学院 理学療法士 馬場 将夫)

「作業改善の技術」

谷 口 芳 三 著

経営工学的な発想で書かれた本であるが、OT にとっても ADL 改善につながる共通的なものがあり、患者が職場復帰する場合において身体的ハンディのある人はいかなる動作改善で補うか、また動作効率のよい仕事をするのにどのような治具 (自助具) を考案すればよいかということなどでたいへん参考になると思う。以下概略を紹介する。著者は経営工学、作業改善、レイアウトの専門家である。この本は第1章から第9章で構成されている。第1章、仕事が改善を待っている、では農家の生活の合理化を実例をあげている。第2章、繁栄は改善から、では、日本人は手先が器用で勤勉だが怠けの精神に欠けるので生産性が低い。

第4章、あなたも改善できるでは、テラの発明の態度とか科学的なものの見方について述べている。第6章、動作の研究では、動作研究を初めて実用化して輝しい業績を残した人、F.B. Gilbreth の紹介と彼の考案した Therblig 法 (ギルブレスが自分の名前をあべこべにつづってつくったもの、Gilbreth→Therblig) の説明、

自然な動作

左手

右手



ギルブレスによれば、だれもが18個のサブリックを持っている。その使い方1つで、けっこう生活をらくにもすれば、また苦しくもする等、……また動作経済の原則について実例をあげわかり易く説明している。その一例、「どちらの手も遊ば

せないこと、両手を同時に反対方向に動かすようにする。」では図 A は一般にできない。B は書けるが不自然、C はもっとも自然である。……動作改善する手法としてはサブリック法とか米国、日本等で使われている代表的 PTS 法としての WF 法 (ワーク、ワクター) MTM 法 (Methods Time Measurement) が紹介されその分析実例をあげている。その他、効率の良い台所のレイアウトなども書いてあるので一読をすすめたい。

(白桃書房 211 ページ ¥ 480 円)

(神奈川県総合リハビリテーションセンター OT 嶋田豊彦)